

009	From Editor
011	表紙の時計 / ブレゲ クラシック Ref. 7137BB
012	Editor's Choice!
018	ブランパン フィフティファズムスライジデイト / ウブロ ビッグバン インテグラル / IWC ポルトギーゼ・ヨットクラブ クロノグラフ / ブルガリ オクトフィニッシュモサテンポリッシュ / H. モーザー ストリームライナー オートマティック / ベル&ロス BR 05 スケルトンブルー 世界は時計で回っている。
020	A. ランゲ&ゾーネ オデュッセウス
022	ギリシャ 神話の英雄の名を冠して新たな領域に進出
022	エンデバー シリンドリカル トゥールビヨン H. モーザー x MB&F
024	ふたりのCEOの柔軟さが実現させた異例のコラボレーション
026	パネライ ミニール マリーナ 44MM & ミニール ブルー マーレ 44MM 原点に敬意を表し、進化を果たしたアイコン・モデル
028	タグ・ホイヤー モナコ グランプリ・ドゥ・モナコ ヒストリック・リミテッドエディション 記念すべきパートナーシップを祝したモナコ限定モデル
030	チューダー ブラックベイ フィフティエイト・ネイビーブルー 歴史を紐解き誕生したネイビーブルー・モデル
032	オメガ コンステレーション マスター クロノメーター モダンな面持ちにリフレッシュした基幹コレクション
035	レペー839 ヌメデューサ、アラクノフォビア 机上でクラゲやクモが24時間を刻む。日々楽しからずや
046	ジュネーブ・ウォッチ・デイズ

2020年唯一となったスイスでの新作発表会

8月26日から29日の4日間、2020年にスイスで行われる唯一の発表会となったジュネーブ・ウォッチ・デイズが開催され、17ブランドが新作を発表した。これはブルガリ・グループCEOのジャンクリストフ・パバン氏の提案で企画されたもので、スイス連邦とジュネーブ州の感染予防対策に厳格に準拠して実施された。日本に輸入されている8ブランドの新作の概要を紹介する。

2020年ブランド別新作情報 第2弾

今年は何度か回に分けて新作を発表するブランドも多い。また市場が比較的安定していることから、日本では発表した直後、あるいは同時に発売という新作も見られる。6月以降に発表され、すでに発売中あるいは10月以降に発売が予定される20ブランドの新作の概要を見るとともに、コロナ禍での各社の展開をみてみたい。

064	カシオGショック®GMW-B5000CS-1JR®、GBDD-H1000® 格子柄が魅力のスクエアと心拍計付き機能派のラウンド
066	ハミルトン®PSR® 誕生50周年を記念して復刻された1970年代の先端時計
070	ハリー・ウィンストン2020新作
074	文字盤の立体的な構造と緻密な装飾で表現された個性
074	オーデマピゲ®CODE 11.59 バイオデマピゲ® バイカラー・ケースとカラー・ダイアルでコレクションの充実を図る
076	オーデマピゲ®ロイヤルオーク オフシヨア クロノグラフ®
077	ウブロ®ビッグ・バン サンブルⅡ ホワイト® & ビッグ・バン ミレニアルピンク®
078	グラスヒütte・オリジナル®SeaQ パノラマデイト®
079	ブランパン®ヴィルレウルトラスリム®&ヴィルレコンプリートカレンダー®
080	ピアジェ®アルティプラノ トゥールビヨン®とカスタマイゼーション
081	モンブラン®スターレガシー オルビステラルム®
082	タグ・ホイヤー®160周年記念モデル®
083	オメガ®スピードマスター ダークサイド オブザムーン アリング®
084	ロンジン®ヘリテージ クラシック®タキシード®
085	フェアブル・ルーバ®レイダー・シーバード®
086	グラハム®クロノファイター ヴィンテージ アニマルシリーズ®
087	グラハム®創業25周年記念復刻モデル®
088	ベル&ロス®BR 03-92 パーガンディ ブロンズ®& BR 03-92 ホワイトカモ®
089	オリス®ロベルト・クレメンテ リミテッドエディション®
090	トムフォード®タイムピース®N.001®
091	ゴリラ®ファーストバック GTレガシー東京®
092	新製商品情報
100	グッチ®Gタイムレス®コラボレーション・プロジェクト
102	ウブロ®ブティック銀座® 移転オープン
103	ゼニス®ブティック銀座® 移転オープン
104	「グランドセイコーブティックフラッグシップ和光」セイコーミュージアム銀座」
105	第10期ウオッチコーディネーター&第5期上級ウオッチコーディネーター試験
106	1-1-2 インフォメーション / 問い合わせリスト / 次号予告

A.ランゲ&ゾーネ ムオデユツセウス

ギリシヤ神話の英雄の名を冠して新たな領域に進出

最近の時計の流行といえば10気圧以上の防水性能をもつステンレス・スチールのケースとブレスレット、そしてブルー文字盤を組み合わせたスポーツ・ウォッチである。昨秋A.ランゲ&ゾーネはこの領域に入るムオデユツセウスを発表。しっかりとしたモノづくりが窺える新作だ。



ストップ・セコンド機構を装備したムーブメントは、プラチナ製ウエイトつきのローターを備える。

てゆき、40mm超えも普通になっていった。

さらに時計の魅力のひとつである精密なムーブメントを見せるシースルー・バックを採用するいっぽう、文字盤は通常のラックカードだけでなく、エマイユ、カーボン、カレードモP、カット・オフ・ダイアルなどが次々にデビューした。つまりこの時期に時計は積極的に付加価値をつけ、大いに自己アピールを果たしたのであった。

では、今現在は何？ といえば、それは夏のリゾート地限定のようなガチガチのスポーツ・ウォッチではなく、ジャケッ トやスーツなどにもよく似合うプレーリーなモデルがトレンドである。具体的にはSSケース+ブレスレット仕様で、10気圧防水の自動巻きモデルで、一番人気は文句なくブルーの文字盤だ。実は一昨年来、各社の現行カタログには、このブルー・ダイアルが必ずと言って良いほど掲載されているが、メーカーによればその動向は「すこぶる好調」とのことだ。そのカテゴリーに、新たに新型モデル

が加わった。それが、ここに紹介するA.ランゲ&ゾーネ初となるステンレス・スチール製のオートマテイク・モデル、ムオデユツセウスだ。ギリシヤ神話の英雄であり、知将でもあったオデユツセウスはトロイアの戦いに勝利したことで知られているが、結論から先に述べてしまえば、明快な意匠と、強く粘りのあるつくりは、その名称を冠するに相応しいラグジュアリー&スポーツ・モデルだと思おう。

各部を見て行こう。6つ目となるコレクションは、ダイアル右にA.ランゲ&ゾーネが得意とするアウト・サイズ・ダイヤル、左にデイ表示を備えたスモールセコンド・ウォッチである。これらの表示はいずれも大きく見易いのが特徴で、その文字盤は中央部にマットな粒状、そして周囲にはサーキュラー仕上げがなされる。また、外周にセットされた秒表示の、60はアイ・キャッチとなる赤でペイントされ、バンドとバー・インデックスにはホ

言うまでもなく、腕時計にも流行り廃れがある。過去の取材ノートをひっくり返してみると、たとえば2000年代初頭の2大フェアでは、フライン・セラミック・ケース、球体ムーブメント、高級アラーム、トゥールビヨン16社発表、シリウム製ヘア・スプリング、ガルシヤ・ストラップ……といった新製品や新

機軸の名称を見て取ることができる。

振り返ってみれば、1990年代中盤から2000年代前半にかけてのこの期間は、腕時計の販売が好調に推移してきた時期であり、各メーカーは機軸面だけでなく、次第に時計の見た目やファッション面なども重視するようになった。まずケースは、それまでの30mmプラスから次第に拡大し

H.モーター×MB&F エンデバー・シリンドリカル トゥールビヨン

ふたりのCEOの柔軟さが実現させた異例のコラボレーション

時計ブランド同士という異例のコラボレーションが行われた。H.モーターとMB&Fという小規模ブランドがお互いに特性を分かち合い、それぞれひとつのモデルを完成させた。両社のCEOのフレキシブルな姿勢が時計産業に新しい風を吹き込むことが期待される。



「エンデバー・シリンドリカル トゥールビヨン H.モーター×MB&F」。直径42.0mm×厚さ19.5mmのSSケースに自動巻きのCal.HMC810 (29石、毎時2万1600振動、パワーリザーブ約72時間)を搭載する。文字盤はコスミックグリーン・フェム。サファイアクリスタル・バック。ブラックのアリゲーター・ストラップが付く。価格1045万円。

時計メーカーが他業種のメーカーやセレクトブティックとコラボレーションを組むことは珍しくないが、互いにライバルである時計ブランド同士という例はまずないだろう。しかし今年6月には異例のコラボレーションが発表された。

コラボレーションを行ったのは、H.モーターとMB&F。いずれも小規模ながらユニークな製品開発を行っている点では共通する。MB&Fはハリー・ウィンストンでオーパス・シリーズを立ち上げたマキシミリアン・ブッサー氏が2005年にジュネーブに設立し、今日ではオロジカル・マシーン、レガシー・マシーン、コラボレーションによるパフォーマンス・アーツ、そしてクロックを中心とするコークリエーションという4つのコレクションを展開する。どのコレクションもサブライヤーや協力者の名前を「フレンド」として公表し、製造の背景を明らかにする透明性がスイスの時計産業では稀な存在である。そしておよそ10年前からH.モーターの姉妹会社

であるプレシジョン・エンジニアリング社からヒゲゼンマイを購入してきたことがきっかけとなり、H.モーターのエドゥアルド・メイランCEOにパフォーマンスアーツの作品の製作に協力を依頼したという。

協力の承諾を即答したメイラン氏はひとつの条件を提案した。それがMB&FのマシンのひとつをH.モーター流に解釈したモデルを作りたい、ということだった。こうして、エンデバー・シリンドリカルトゥールビヨン H.モーター×MB&F が誕生した。

H.モーターはMB&Fの特徴である三次元ムーブメントとドーム型のサファイアクリスタル、円筒形のヒゲゼンマイを装備したワンミニット・フライングトゥールビヨン、そして傾斜したサブダイヤルを取り入れた。円筒形ヒゲゼンマイはMB&Fが2019年に発表した、LMサンダードームのためにプレシジョン・エンジニアリングが開発したものが採り入れられた。傾斜した時刻表示のサ

ジュネーブ・ウォッチ・デイズ

2020年唯一となったスイスでの新作時計発表会



“ジュネーブ・ウォッチ・デイズ”はジュネーブ市の協力を得て行われ、ジュネーブのローヌ川に面した場所にオフィシャル・パビリオンが設けられた。ヨーロッパから訪れた時計販売店やプレスに向けた発表は各ブランドが独自にホテルなどに会場を設けたが、パビリオンでは一般市民が新作の展示を見ることができた。

初日にはこの発表を企画したブルガリ&ジェラルド・ジェンタのジャン・クリストフ・ババン氏(右から5番目)をはじめ、ジェラルド・ベルゴ&ユリス・ナルダンのパトリック・ブルニエ氏、H.モーザーのエドゥアルド・メイラン氏、ブライトリングのジョージ・カーン氏、MB&Fのマキシミリアン・ブッサー氏という創始メンバーや、順メンバーのCEOたちも顔を揃えた。

8月26日から4日間にわたりジュネーブで17ブランドによる新作発表会が開催された。新型コロナウイルスの影響でウォッチズ&ワンダーズとバーゼルワールドが中止となり、この発表会が2020年にスイスで開催された唯一となった。ブルガリ、ブライトリング、ドゥベトウー、ジェラルド・ジェンタ、ジラルド・ベルゴ、H.モーザー、MB&F、ウルベルク、ユリス・ナルダンが創始メンバーに名を連ね、ボヴェエやモーリス・ラクロア、チャペックなどが準メンバーとして参加し、それぞれ独自に会場を設けて新作を発表。ここでは日本に正規に輸入されているブランドの新作を取り上げた。

カシオGショック「GMW-B5000CS-1JR」、GBD-H1000

格子柄が魅力のスクエアと心拍計付き機能派のラウンド

Gショックにレーザーで格子柄を加工したスクエア・モデルが今年発売された。きちんとした繋ぎ目で、全体にバランス良く仕上げられ、カラーバリエーションの登場が期待される。一方、ラウンドにはカシオの技術を盛り込んだ初の心拍計付き多機能モデルが登場した。



ステンレス・スチールの全面にグリッドを刻み込んだモノトーンのGショック「GMW-B5000CS-1JR」。ベース・ウォッチは縦43.2mm×横49.3mmで、20気圧防水のメタル・モデルで、ソーラー電波(6局)、モバイルリンク、アラーム、ワールド・タイム、ストップ・ウォッチ、フルオート式デイ・デートなどの機能を搭載する。価格は9万6800円。

カシオの新しいGショックをふたつ紹介しよう。1983年4月にデビューした

コレクションは今年で37年目を迎えるが、その初代のスクエア・クォーツ・モデルは今なお生産が続けられており、それでいて今日でも絶的な人気を誇っているのだから、これは極めて稀なスーパー長寿モデルと言える。そして、この間、「落としても壊れない腕時計」という持ち前のコンセプトは不変であり、シリーズの累計生産数は2017年に1億個(一)を突破しているのだから、まさに驚くほかはない。

その初代Gショックが大きな変貌を遂げたのは35周年にあたる2018年であり、この時には最大の特徴である安価な樹脂製ケースに加えて、ステンレス・スチール・モデルが追加された。このメタル・モデルが好評のうちに受け入れられたのはすでにご存知のとおりだが、今年はそのコレクションに魅力的な最新のバリエーションが加わった。それがケースとブレスレット全面に、格子柄をエンゲ

レービングした「グリッド」である。

その工程は、大きくふたつに分かれている。まず、はじめにステンレス・スチール製のケースとブレスレット&バックルに、ブラックのIP加工が施される。続いてはメタル表面でできたこのブラック蒸着メッキ層を、レーザーを使って格子柄に削り取ってゆくのだ。しかし、ダイヤルやケース、さらにブレスレットなどそれぞれの繋ぎ目を眺めてみれば分かる通り、最大の特徴はきめ細かく、しかもバランス良く仕上げられていることだ。ちなみにメタル・コレクションにはカモフラージュやエイジド・モデルなどが存在するが、本機はピカイチの出来栄と見えるだろう。また期待感も大だ。それは、ネイビーや濃いグリーン地にシルバリー・カラーのグリッドを刻んだ魅力的なバリエーションが、すぐにでも追加される気がしてならないからだ。

もうひとつは多機能を積み込んだラウンド・ケースのGショックである。もち

誕生50周年を記念して復刻された1970年代の先端時計

1970年代の先端技術を象徴したひとつがハミルトンの「パルサー」であった。それから50年、ハミルトンはパルサーの2代目の「P2」を復刻させた。ケースは当時の面影を感じさせるコロロンとしたフォルムだが、使い勝手や読み取りやすさは進化した。

1960年代後半に多感な高校時代を

過ごした当時の男子高校生にとって、最も興味があった「機械」は、クルマとモーターサイクル、そして腕時計と一眼レフレックス・カメラなどである。

たとえば年齢が16歳に達すると、皆で

誘い合って原付免許を取りに行き、50cc

のオートバイで腕を磨いた後、自動2輪の実地試験に果敢に挑戦したものだ。その当時、鮫洲の試験場の実地コースは、確か3種類あったと記憶する。そして、先に受験に行った先輩から後輩へと代々受

け継がれてきたコースの略図が手渡され、

受験者はその道順を頭の奥に叩き込んでから試験場へと向かったものだ。

いっぽう、時計好きとカメラ好きは、クラスに平均3人〜5人くらい存在していただろうか。クルマなどに較べると、このふたつは現実に高校生が所有できる機械だったこともあって、同好の士も多かった。

むしろ、1969年末に発売された世界初のクォーツ式腕時計、セイコー・クォーツアストロンはそれなりの話題となったが、さほど大きく盛り上がりはなかったのは、第一にデザインが親父臭かったのと、われわれ高校生からしてみれば40万円を大きく超えるその価格が現実的ではなかったからだろう。

ハミルトン・パルサー

時代はやや進み、1970年代に入ってから興味をもった腕時計といえば、それは初のLEDデジタルウォッチとな

ったハミルトン・パルサーだ。しかし、発

明されて間のないLED (Light Emitting Diode) 発光ダイオード) は、この後、果たして何年間光り続けているのが、不明」と言う状況で、また発光素子自体も赤色しかなく、緑色や青色が登場する以前の話であった。

そのパルサーのデビューは1970年5月であったが、大々的に日本へニュースがもたらされたのは、この先行モデルではなく、1972年に登場した初代生産モデルの角張ったP1や、1973年からの丸みを帯びたP2であり、こちらはわれわれの間でも大きなインパクトをもって受け入れられた。このため、パルサーは一世を風靡したと言われることがあるものの、皆がみな購入した訳ではない。ただし、その鮮烈なゴールドカラーのケースに収められた赤色の発光ダイオードで時刻を知らせるパルサーは、どこか新しい1970年代の香りがしたものだ。



1970年代に生産された初の液晶デジタル・クォーツ・ウォッチ、パルサーの復刻モデル、ハミルトンPSR。LEDは通常の状態、確かに色気は薄いものの室内でも時刻を読み取ることができる。ステンレス・ケースで、価格は9万9000円。

ワールド・ムック1231
WORLD WRIST WATCH

KESAHARU IMAI
Publisher

TOMOKO KAYAMA
Editor in Chief

KAZUO TSUBOI
Advertising Director

SHUNSUKE OGAWA
Production Director

HIROSHI SASAGAWA
Circulation Manager

DTP
BASE

Correspondent
Washington, D.C. Bureau
(Pictorial Press International)
Mikako Burks

Cover Photo/
Takenori Aoki (WPP)

●本誌に掲載されている価格は
令和2年9月20日現在の調べによるものです。
本文中の価格は消費税(10%)込みの総額表示
です。
© WORLD RHOTO PRESS 2020

【特集】2020年

新作情報「パート3」

今年は何年と異なり、年間に回を分けて
新作を発表するメーカーが複数あります。
またロレックスは9月1日に新作を
リリースすると同時に販売も開始しました。
さらに9月半ばには「ウォッチ&ワンダーズ 上海」が開催され、
新作も登場するなど、常に話題が尽きません。
9月以降に発表された新作をご紹介します。

新作レポート

イレギュラーな2020年でしたが、興味深い新作ももちろん見られました。
これらの詳細をレポートします。

「世界の腕時計」第146号は2020年12月8日発売予定です。

世界の腕時計 定期購読のご案内

毎号、送料無料でお届けします!

お近くに書店のない方、毎号確実に入手したい方
便利な定期購読を是非ご利用ください。
特別定価アップ分、および送料はサービスいたします。

【年間購読料】

1年間(年4冊) **6,704円(税込)**
(3月、6月、9月、12月・8日発売予定)



【お申し込み方法】

- フリーダイヤル 富士山 富士山
- お電話で(年中無休24時間受付) **0120-223-223**
 - インターネットから <http://fujisan.co.jp/sekainoudedokei>
 - 携帯電話から <http://223223.jp/m/sekainoudedokei>
 - QRコードから 上記QRコードからアクセスして下さい。

【お問い合わせ】

富士山マガジンスerviceカスタマーセンター
パソコンサイト:<http://fujisan.co.jp/cs>
メールの場合:cs@fujisan.co.jp
に、お問い合わせください。

■注意事項

- 定期購読の契約は、富士山マガジンスerviceとの契約となります。
- お支払いのタイミングによっては、ご希望の開始号が後ろにずれる場合がございます。
- 地域によっては、発売日より商品到着が若干遅れる場合がありますので予めご了承下さい。
- 定期購読は原則として途中解約はできませんので予めご了承下さい。

編集の都合上、内容が一部変更となる場合もありますので、ご了承ください。

ワールドフォトプレス ホームページ <http://www.monomagazine.com>

WORLD M O O K

ワールド・ムック1231

世界の腕時計

No.145

令和2年10月30日発行

発行人……………今井今朝春

編集人……………香山知子

発行所……………株式会社ワールドフォトプレス

〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2

編集部……………☎03-5385-5667 FAX.03-5385-5617

広告営業部…☎03-5385-1350 FAX.03-5385-1348

販売部……………☎03-5385-5701 FAX.03-5385-5703

印刷所……………大日本印刷株式会社

- 造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら
小社・販売部宛てにお送りください。送料小社負担にてお取替えいたします。
- 本誌掲載記事の無断転載・複製・転写を禁じます。